

## わ かり や す い カ タ チ

松波登記臣† (名古屋市獣医師会・松波動物病院メディカルセンター)

私がアフリカ・ウガンダ共和国で仕事をしていたころ、日本では「ウガンダで新型エボラウイルスが発見された。」という報道がされており、私はそれを帰国してから知ったという、そんな情報音痴の自分が、人類発祥の地で駆けずり回っていたのは記憶に新しい。それからと言うもの、私は自分を啓発したかのように、常に新しい情報を、現場に赴き直接仕入れ、それを「わかりやすいカタチ」にすることにこだわり始めた。

帰国後、大学院で研究に没頭した。獣医学研究にいるにもかかわらず、研究内容は『医学系』な基礎研究。近年ペットの世界でもにわかに注目を集め始めている「メタボリックシンドローム」が私の研究テーマ。実際のところは、それほど華々しい内容ではなく、メタボリックシンドローム関連疾患である糖尿病や脂肪性肝炎などの疾患モデル動物を作製するというものだ。

実に研究は面白い。実に研究は単純だ。それは、研究は「情報が命」という世界でもあり、ライバルが多い内容では、毎日スピード勝負であり、獣医師でもある自分が“医学系”の世界に足を踏み入れてしまった、というのが当時の印象であった。その思いは現実となる。研究の失敗の連続、論文が通らない日々、学会では支離滅裂な質疑応答を繰り返す醜態を披露し、そして新しい疾患モデル動物を世に送り出せないもどかしさ、正直退屈な日々を過ごしていた。しかし、そんな私でも、「情報収集」だけは怠らなかつた。気がつくと、自分の研究分野以外の文献も読み漁っていた。その際、とあることに気がつく。「これだ」。今流行っている研究分野を徹底的に調べ、さらには、いつ世の中に出てきたのかも同時に調べる。その結果、今流行っている研究の理由が明確に分かってくる。それは、テーマだったり、目的だったり、材料及び方法だったり、…そして「わかりやすさ」だったりした。

それらを意識し、再び研究に勤しんだ。それからというもの面白いように研究結果が出たり、執筆する論文が受理されたり、また博士課程を修了するまでに6報も執筆することができた。また、獣医系はもちろんのこと、医学系学会にもお声を掛けていただくなど、多くの学会に参加することができ、また大変名誉ある賞もいただく

ことができた。研究生生活を通じ、常に意識しなければいけないことは大変多い。だがその中でも強く意識していたのは「わかりやすさ」であった。その、「わかりやすさ」を追求した結果、論文や学会発表、そして数々の賞という『カタチ』として、世に出回り、発信され、多くの方に知ってもらえたことは、心から嬉しかった。

現在、名古屋にある松波動物病院メディカルセンターにて勤務医をしている。「研究をしていた、それも基礎研究をしていた獣医師が臨床をしているのか？」と研究時代の仲間たちはよく口にする。それに対し私は「臨床は面白いですよ。もしかしたら『わかりやすさ』が一番求められる世界なのかもしれません。」と、繰り返し答えている。

アフリカ、そして研究で経験し、そこから養うことができた様々な知識、そして能力は、別の分野でも発揮される。「生物多様性」の普及啓発。研究に没頭しながらも、非営利な活動にも力を注いだ。きっかけは単純だった。「多種多様な生きものたちを守るのは、獣医師としての使命」。この言葉を知ったときからその想いを抱いていた。旧・生物多様性条約市民ネットワーク（現・CEPA JAPAN）というNGOに所属すると、私はその組織の中にある普及啓発作業部会というワーキンググループに配属された。その作業部会には、政府機関、民間企業、自治体及びNPOなど、その業界業種の中で、第一線で活躍している、「有志」の集まりだった。皆の目的は一つだった。『生物多様性』という言葉の普及啓発したい。そのワーキンググループで活動していく中、私は、とあることに再び気がつく。それは「わかりやす

## 松波登記臣

## —略歴—

2007年 日本大学卒業  
2011年 日本大学大学院卒業  
同 年 松波動物病院メディカル  
センター勤務



† 連絡責任者：松波登記臣 (松波動物病院メディカルセンター)

〒467-0027 名古屋市瑞穂区田辺通5-2-11

☎052-833-1111 FAX 052-833-1112

E-mail : tokio\_matsunami@matsunami.co.jp

さ」だった。そこでは、広報・PRの専門家たちが、定性的に多く集まったモノ（情報）や想いなどを、「わかりやすい」カタチにして、それぞれのフィールドで発信していった。その後、それら活動と成果が認められ、我々は生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に正式に参加することができた。

私はいつも思う。「わかりやすさ」は『カタチ』になる。それが、上記活動を経験したことで、私自身が養ったノウハウでもある。

現在、私は、獣医師の「仕事と生活の調和（ワーク・ライフバランス）」、つまり“働き方”を含む労働環境及

び条件に問題意識を持っており、少しずつではあるが活動を始めている。それがいつ「カタチ」となって世の中に発信され、影響を与えるものになるかは、私自身も分かってはいない。だが、この活動に対しても、今まで以上に、「わかりやすさ」を追求していくつもりだ。もう一度、強く言いたい。「想い」だけではカタチにはならない。実際に行動し、情報を収集し、それら正しい知識を用いて、「わかりやすく」、そして、『カタチ』にしていかなければ、モノ（情報）も想いも、決して多くの人や組織に対し、“共感”を生むことはなく、人の心にも届かないものになってしまうのだ。